

◆表紙の紹介◆

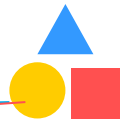
「雪かき体験交流会」

横手市山内南郷地区において2月9日、「雪かき体験交流会」が開催されました。大学生と高校生を含む市内や秋田市などから10名が参加しました。南郷共助組合の除雪チーム「お助け隊」のサポート受けながら、除雪作業を体験しました（詳細は2ページ）。

◆目次◆

- P2 「雪かき体験交流会」開催報告
- P3 活動ウォッチング 「十文字和紙工房」
- P4 わくわくげんき 一年を振り返って—横手高校定時制
- P5 助成金・イベント情報
- P6 SDGs「持続可能な開発目標」を知ろう





「雪かき体験交流会」開催報告

2月9日、横手市山内南郷地域にある「南郷共助組合」の組合員の方々と、ふれあいながら「雪かき体験交流会」が行われました。人口減や高齢化が進み、除雪の担い手不足が深刻化する中、ボランティアによる支援の可能性を探る狙いで県が主催、秋田県南 NPO センターが実施しました。

＜雪かき体験＞

雪まつりでの見るだけの雪とは違う、生活に密着した除排雪作業での雪を、実際に経験してもらいました。道具もさまざまな種類があり、作業によっての使い方を同組合の方から、指導を受けました。除排雪作業に参加者の皆さんは汗を流しながら、胸まである軒下の雪を寄せました。

雪質の違いと南郷地域の景色の良さに、「感動する」との声もあり、除排雪作業を終え、力を合わせて作業したことに、大変満足感を得られたようでした。



高橋徳保組合長



除排雪作業中



除排雪道具



道具の使い方の指導中



除雪機の操作を見学

＜田舎料理を堪能＞

除排雪作業の後に、南郷地域の方々による手作りの田舎料理である納豆汁、いぶりがっこはじめとする漬物を参加者で堪能しました。



温かい料理を堪能

＜担い手不足と言われている現状とこれからについての意見交換＞

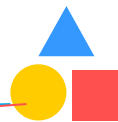
大学生と高校生を含む市内や秋田市などから10名が組合の皆さんとて、意見交換をしました。担い手不足の現状に対して、「支援が必要な人は?」「担い手となる人はどんな人?」「担い手を増やす方法は?」などを話し合いました。地域外の方からの意見を聞くことによって、組合員の方々は「元気をもらった」との笑顔で語ってくれました。「このような交流会をたくさん開催してほしい。開催することで、担い手が増えるだろう。」という意見がありました。



世代を超えた意見交換



作業後の笑顔



THEME_ボランティア/NPO

美しい十文字和紙を後世に残したい ～昔ながらの和紙を生活の一部として～

DATA_団体情報

十文字和紙工房
 代表/佐々木 清男 TEL:090-2605-8917
 作業場:十文字西公民館内
 横手市十文字町植田一ト市 330

「十文字和紙工房」は、平成 30 年度平鹿地域振興局「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業において、平成 31 年 2 月 19 日に表彰されます。

伝統の技術を次世代に

江戸時代から伝わる十文字和紙は、地元の人知らない人がたくさんいます。横手市十文字町睦合において、多くの集落で農閑期である 12 月～3 月に、屋号を「紙屋」という数件の農家が紙すきを生業としていました。現在は、代表の佐々木清男さんが昔ながらの技法を受け継ぎ製作しています。佐々木さんの作製する和紙は、和紙の原料である楮（コウゾ）を育成、皮はぎなどの十数工程の作業を経てから、紙を漉ける段階になるそうです。和紙漉きの設備は、横手市十文字にある十文字西公民館にあり、平成 6 年からは、旧十文字西中学校の二年生が先輩のために卒業証書を漉いていました。現在では、統合した十文字中学校の他、保育所などでも卒業証書として卒業生に手渡されています。



代表者の
佐々木清男さん

地域へ残すために

平成 25 年に和紙づくりの後継者を横手市の声掛けで募集しました。和紙に興味を持った方々が、次々に「十文字和紙工房」のメンバーとなって、今も原料の準備、体験会の手伝いをしています。また、和紙を材料とした灯籠、帽子、バック、日傘、アクセサリなどを作る造形作家の方々もいらっしゃいます。メンバーの中には、材料の楮などの育成や皮はぎの作業中にいろいろな会話をする時間が楽しくて、活動に来ている方もいるそうです。参加することで、地域

の人とつながりが出来たとか。和紙の良さを伝えるため、地域の小学生や県外からのお客様には、ハガキを作成してもらうなど体験会も開催しています。障子紙として使用すると、非常に柔らかな光と室温を暖かく保ち、破れにくく長持ちするという感想を使用している方からいただきました。



上：紙を漉く佐々木さん
下：材料を下準備するメンバー

未来の担い手の声

活動メンバーの中には、20 代の女性が数名います。メンバーの柿崎美和子さんは、十文字和紙で作られた作品に触れる機会がありました。作品の素晴らしさから、和紙の原料の育成から関わり合いたいとメンバーになりました。和紙を受け継ぐ人となり、自分の後の世代にぜひ残すべきだと考えているそうです。3 月 16 日、17 日にアトリオンで開催する「心ぬぐだまる和紙のせかい 十文字和紙展」では、佐々木さんの紙を中心に作品を発表する一人として参加するそうです。

また、和紙制作体験をした小学生が担任の先生に、「佐々木さんの和紙を使った商品を考えて、十文字和紙を広める工夫が必要だね。広めないと和紙の技術がなくなってしまうから。」という感想があったそうです。なくしてはいけない伝統的なものということを感じ取ってくれたと先生が教えてくださいました。多くの方々を知ってもらいたい活動でした。

(熊谷淳子)

わくわくげんき Vol.8

横手高校定時制の高校生ライター4名に聴きました。地域で活動している団体が、サービス提供だけでなく、地域社会をよりよくしていこうという思いや社会課題を解決するための活動をしています。取材を通じて、何か感じ取ってくれたようです。

◆今年一年取材しての感想はいかがでしたか？

佐藤理湖さん：

今年度で取材活動2年目でした。そのため、取材の仕方や感想の書き方も少し上達したと思います。

取材では事前に対象団体のことを調べ臨むことができました。実際にお話を伺うと、たくさんの苦労や今後への思いを聞くことができ、大変興味深かったです。どの団体も努力をして、頑張っているということが代表の方の話から伝わってきました。そのため私も、努力し、頑張っていこうという勇気をもらうことができました。

この取材活動をしていて、どの団体の方々もイキキとしていて積極的でしたらしいと思いました。



佐藤理湖さん

諸越知美さん：

私が今年度印象に残っているのは、サンソンプロジェクトです。この活動には、去年も参加していますが、二回目だったのですが、やはり農作業は大変でした。しかし、地域の方との交流や山菜植など普段はできない体験をさせていただき、貴重な経験になりました。また、来年度も行われる際はぜひ参加したいと思います。これからもボランティア活動を通してたくさんの人と交流し、自分の考え方や世界を広げ、将来の職業などに活かしていきたいです。



諸越知美さん



山菜植え付け作業の様子

佐藤碧さん：

今年度の印象に残った取材体験は、5月に横手市山内で行われたサンソンプロジェクトへの参加です。不慣れな農作業は大変でしたが、友人と協力し地元の人々と触れ合いながら行う作業は非常に良い経験になりました。また、多くの人と出会い、コミュニケーションをとることで積極性を身につけることができました。

私は今年度卒業します。進路は希望していた公務員の内定を頂きました。取材活動を通して得た積極性を生かし、社会人として多くのことを学んでいきたいと思っています。



佐藤碧さん

菅原寛人さん：

今年度は就職活動に忙しく、ハンサンの取材活動に毎回参加出来ずに終わってしまいました。しかし、この2年間の活動はとても充実していて、自分の知らない世界ばかりで新鮮味のある取材の日々にとっても満足しています。この活動を通じて、書く、聞く、話すといったスキルが以前よりも伸びていると思います。今までの経験を踏まえて、今後の仕事に繋げていきたいと考えます。2年間の取材活動をサポートしてくれた方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



菅原寛人さん

◆活動体験先、取材先からの声

山菜植え付け体験先では、慣れない作業の中でも一生懸命な姿を見てうれしかったとの声がありました。また、取材を受けてくれた皆さんからは、活動への思いをたくさん語りたくなるような眼差しが印象的との声が聞かれました。

◆助成金・イベント情報◆

公益財団法人ノエビアグリーン財団助成事業

児童、青少年の健全育成の向上を目標とした体験活動およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、地域に根ざした子供たちへの支援活動などを奨励している活動を支援。

募集期限：平成31年2月28日（木）
 助成金：1件あたり上限300万円
 詳細：<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/organization/>
 問合せ先：公益財団法人
 ノエビアグリーン財団 事務局
 TEL：03-5568-0305



社会貢献基金助成

災害救済、社会福祉、環境保全、地域つながり、冠婚葬祭継承など社会貢献活動への助成、並びに社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に助成。

募集期限：平成31年2月28日（木）
 助成金額：1件あたり上限200万円
 詳細：<http://www.ceremony-culture.jp/social/service/fund/content01/>
 連絡先：（一財）冠婚葬祭文化振興財団
 社会貢献基金助成 運営事務局
 TEL：03-3596-0061



コメリ緑資金ボランティア

財団では、株式会社コメリとの連携で、地域の幼稚園・保育所・小中学校・特定施設の行内緑化活動など、公共性のある活動が対象。

募集期限：平成31年5月31日（金）
 助成金：活動で使用する花苗などの購入資金として贈呈
 詳細：<http://www.komeri-midori.org/koubo/volunteer.html>
 問合せ先：公益財団法人
 コメリ緑育成財団 事務局
 TEL：025-371-4455



2019年度緑の募金

企業、地域、学校、職場から善意の寄付を募り、森林ボランティアやNPOなどを通じて国内外の森林づくりや人づくりをはじめとした様々な取り組みを行っています。

募集期間：平成31年2月15日（金）～3月31日（日）
 助成金額：1事業あたり上限100万円～
 詳細：<http://www.green.or.jp/bokin/>
 問合せ先：公益財団法人国土緑化推進機構
 TEL：03-3262-8457
 FAX：03-3264-3974



第31回 地域福祉を支援する「わかば基金」

「わかば基金」は、地域に根ざした福祉活動を展開しているグループが、活動の幅を広げるための支援をしています。支援金部門、リサイクルパソコン部門、災害復興支援部門の3つの方法で、ボランティアグループやNPOの活動を応援。

募集期限：平成31年3月29日（金）
 詳細：<https://www.npwo.or.jp/info/12995>
 問合せ先：NHK 厚生文化事業団「わかば基金」係
 〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-4-1
 TEL：03-3476-5955



秋田で考えるSDGs

地域で活動している団体の具体的な活動事例をふまえながら、様々な地域課題を協働で解決していくための新しい視点として考えてみませんか？

日時：平成31年2月16日（土）13:00～17:00
 会場：遊学舎（秋田市上北手荒巻字堺切 24-2）
 参加費：500円
 申込み・問い合わせ：あきたパートナーシップ
 TEL：018-829-5801
 FAX：018-829-5803



心ぬぐだまる和紙のせかい 十文字和紙展

横手市十文字町で活動している十文字和紙の作り手とその和紙に惚れ込み染め紙、紙糸、灯りや帽子やブローチなどの日常使いの小物を制作している4人の作品展示会。和紙のせかいに触れてみてはいかがでしょうか。

日程：平成31年3月16日（土）11:00～17:00
 平成31年3月17日（日）10:00～17:00
 会場：秋田市アトリオン3階展示室
 秋田市中通2丁目3-8
 問合せ先：090-7066-5066（渡辺）



活動資金調達をお考えのNPO法人・市民活動団体向けの助成金情報です。

申請書の書き方等の相談を受け付けております。
 ご相談（0182-33-7002）ください。
 休館日（木曜日）

THEME

SDGs 「持続可能な開発目標」を知ろう

◆SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGsは、日本語では「持続可能な開発目標」といい、2015年9月の国連サミットで採択された「2030年までに世界をもっとよくするための目標」です。世界を変えるための17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成され、「誰一人として取り残さない (leave no one behind)」をかかげています。

◆持続可能な開発のキーワード

人間 (People)、繁栄 (Prosperity)、地球 (Planet)、平和 (Peace)、連帯 (Partnership) の「5つのP」で分類されます。

人間 (People)

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に

繁栄 (Prosperity)

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを

地球 (Planet)

- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

平和 (Peace)

- 16 平和と公正をすべての人に

連帯 (Partnership)

- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

◆日本政府の取り組み

2016年5月に「SDGs推進本部」が設置。本部の下で、行政、民間セクター、NGO・NPO、有識者、国際機関、各種団体等を含む幅広い利害関係者によって構成される「SDGs推進円卓会議」を経て、同年12月、今後の日本の取組の指針となる「SDGs実施指針」を決定しました。

<参考>

外務省HP：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/effort/index.html>
日本NPOセンターHP：
<https://www.jnpoc.ne.jp/?p=14065>



編集スタッフの VOL.9
つぶやき

NPO 派遣相談員
今 拓也

…この冬、除雪をしなくてもすむ日が例年より多めと感じています。積雪量は例年並みと豪雪地帯ぶりを発揮しています。…さて、雪の話題“あるある”に「この大量の雪を何かに利用できないか？」がありますが。かの有名な“さっぽろ雪まつり”は、市民の雪捨て場にある雪を利用して中・高校生が制作した雪像が展示されたことが始まりだったそうです。しかも、その開催のルーツになった小樽での「雪まつり」を発案したのは、秋田県出身の校長先生だったそうです。(すごい繋がった!)…除雪・雪おろしはシンドイですが、身近なモノで楽しむことにヒントがあるのかなと感じました。

秋田県ボランティア・NPO 活動ニュース県南版

ハンサン 2019年2月10日発行
2月号 VOL.139

発行：秋田県あきた未来創造部地域の元気創造課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県NPOセンター
(南部市民活動サポートセンター)
〒013-0046 横手市神明町1-9
TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00 土 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

<http://www.kennannpo.org/project/supportcenter.html>

